六話

ある所に、雉子と猿どえであったって、して寄合田作ったど、猿な、じるぐって

「きょう、田打ち行ごう」

と言ったたって

「俺、腰痛ぐって行がねでや」

って、そして雉子ばっかり行って田耕してきたたって、猿な、寝ってなんたけ、まだ

「田植え行ごう」

って言えば、そのとおりとっても困ったと思ったたて、行がえね人さ適わねえす。自分ばかり田作って実取ったば、今度

「稲がり行ごう」

と言ったば

「おお、行ごう」

稲刈いたどごで、なんの自分で刈っては、それ食べたりして、仕事どごでねえ食べるの専門でえ、とってもこえだばやじゃかねえって、雉子餅いで猿どごよばたば、早速きて餅、一オシ餅、坂がら転ばして

「猿、猿ただだば餅だば食えねえなんざあえ」

「ただ買えねえす、せば、なえして食ばえって」

猿聞だば

「猿、あいだど、一オシ餅、餅入れで坂がら転ばして、なあおめえな、足速いし臼さついでえて早ぐとづだ人、おめえ食べろえし餅がらみ臼転ばして坂の下で食なぁだど、えが、わが浮たが」

って

「よし、よし、よし、よしそえだば、えんでば」

だどって、猿今度臼がらみどんどんどん走って行ったたて雉子な、あどがらパタパタ、パタパタと飛んで行ったって、ほれ臼から餅取れでしまって、中途さ落ぢで、雉子、それんながら持って、ほれ食べでえだど、しょうとながで、したば猿、今度行ったどごで、遠ぐまで、下まで行ったたって、臼さうんとめし餅入

ってねぇけど、猿、今度
「よし、中途で落ちだだなぁ」
思ってもどって行(え)たば、雉子一生懸命、餅(くち)食ったけど、して
「俺(おれ)さもくれでゃ」
猿言ったば、つまずってやったば「くつゃくつゃ」と熱どごの
ほやほやでえどで、ちぎっておげで、猿の顔(つら)さ「バチャ」となげ
でやったどせェ、そいで猿が顔赤(つらあげ)なぁで、雉子に餅(もち)ぶつけられで
猿の顔赤(つらあげ)なんだと。
とっぴんからりんさんしょうのみ